

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 39人 |
| ② 算数 | 39人 |
| ③ 理科 | 39人 |

5 留意事項

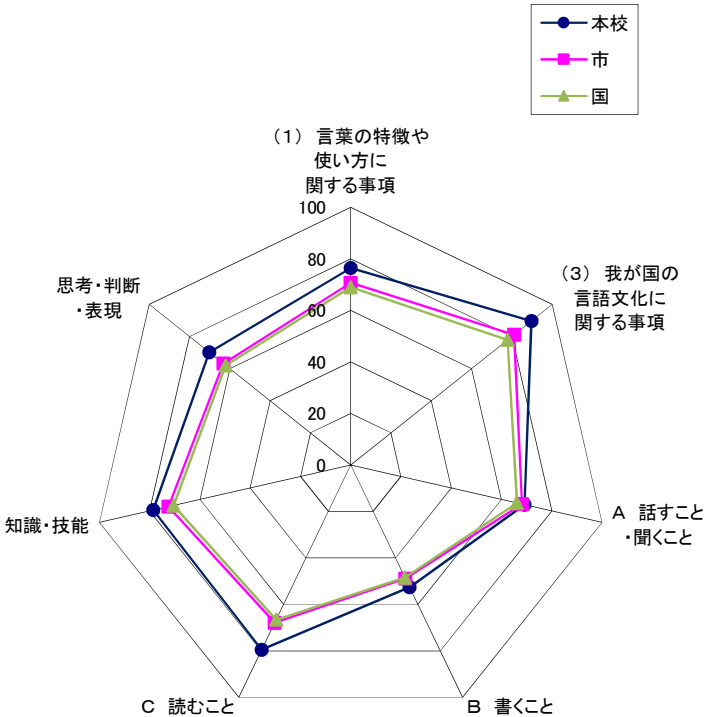
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	76.4	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	89.7	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	69.2	68.2	66.2
	B 書くこと	52.6	48.9	48.5
	C 読むこと	79.5	67.9	66.6
観点	知識・技能	78.6	72.5	70.5
	思考・判断・表現	70.2	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

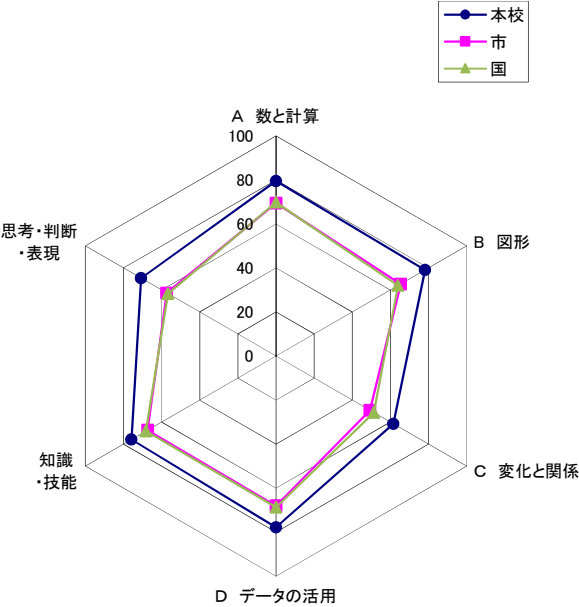
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○平均解答率は、国を7.4ポイント、市を5.7ポイント上回った。特に、話し言葉と書き言葉の違いを理解する問題や、言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える問題では、国や県の正答率を10ポイント以上と大きく上回り、良好な結果となった。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題でも、国や県の正答率を上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・言葉遣いや、相手の意見を認めながら進める大切さを実感することができるよう、話し合い活動の機会を設け、指導していく。 ・既習の漢字については、無解答率が高い問題もあったので、宮っ子ステップアップテストを実施し、繰り返し学習することで定着を図っていきたい。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く問題では、国を11.8ポイント、市を8.6ポイント上回った。	・ICTの活用により、手書きで文字を書く機会が減ってきているが、文章を書く機会を取り入れると共に、用紙全体との関係から考えられる文字の位置、字間、行間などの効果的な在り方を指導していく。
A 話すこと・聞くこと	○平均解答率は、国を3ポイント、市を1.0ポイント上回った。 ○特に、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめ、記述する問題では、国を8.7ポイント、県を8.1ポイントと大きく上回った。 ●必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題では、国を2.6ポイント、県を2.7ポイント下回った。	・友達の意見を聞いたり、話し合ったりする時に、分からないことがあったら質問をして、話し手の意図を明確にしようとする力をつけていきたい。 ・ペア学習やグループ学習を取り入れ、それぞれの立場で考えを伝え合うなど言語活動の充実を図る。
B 書くこと	○平均解答率は、国を4.1ポイント、市を3.7ポイント上回った。 ○特に、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けて記述する問題では、国を5.9ポイント、県を3.8ポイント上回った。 ●しかし、無解答率は10.3ポイントと高くなっている。	・文章を書く活動を、日常的に取り入れる。 ・自分の主張が明確に伝わるような文章全体の構成や展開を考えることができるよう、詳しく書く必要がある場合や、簡単に書いた方が効果的である場合など、目的に応じた文章表現ができるよう指導していく。
C 読むこと	○平均解答率は、国を12.9ポイント、市を11.6ポイントと大きく上回った。 ○特に、登場人物の相互関係について、描写を基に捉える問題では、国を19.1ポイント、県を22.7ポイントと大きく上回り、登場人物の関係を捉えながら物語文を読む力が定着している。	・朝の全校一斉読書や(毎週2回)や読書週間の実施、及び家庭での読書の奨励など、読書活動をさらに推進していく。 ・物語文を読む際には、人物同士がどのような関係にあるのか、互いにどのように思っているのかなど、登場人物同士の関係を図に表すように指導する。

宇都宮市立中央小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	79.5	69.5	69.8
	B 図形	78.2	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	61.5	49.3	51.3
	D データの活用	77.8	68.0	68.7
観点	知識・技能	75.8	67.3	68.2
	思考・判断・表現	70.7	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

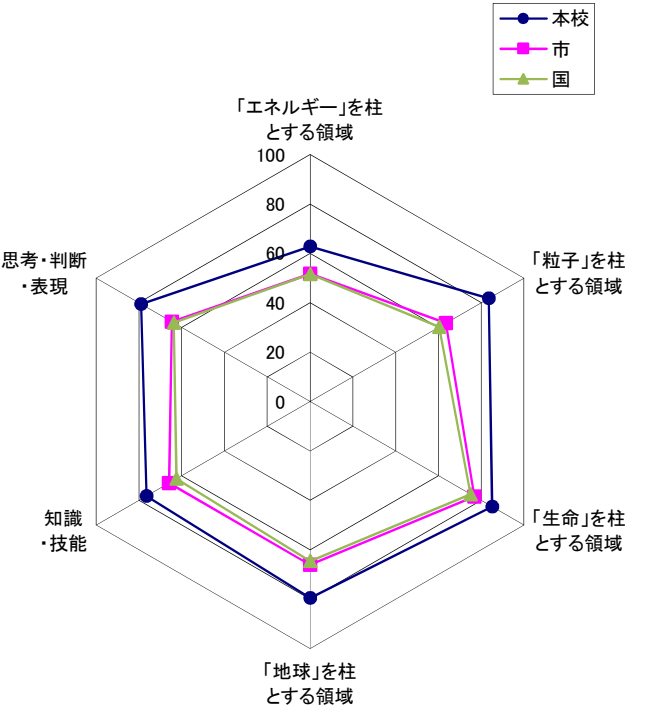
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○平均正答率は国を9.7ポイント、市を10ポイント上回っている。特に四則計算の演算を用いて解決する問題の正答率が高い。四則計算の方法や意味を理解し、問題に合わせて四則を使い分け、課題解決することができている。 ●数量の大小関係ががい数を使って判断する問題は、平均正答率が46.2ポイントで、領域A「数と計算」の中で正答率が最も低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・問題解決の場面に合わせ、がい数を使った数量の把握や量の比較ができるよう、数値をがい数に直す処理の技能を高めたり、日常生活の中でがい数で具体物の数量を捉える機会を取り入れたりする。
B 図形	○平均正答率は国を14.2ポイント、市を12.8ポイント上回っている。特に示されたプログラムを使い、正三角形をかく正しいプログラムに書き直す問題では国を28.1ポイントと大きく上回っている。また、示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ問題の平均正答率も国を16.8ポイント上回っている。図形の性質や角度の概念を理解したり、指示された操作方法を正確に使う図形をかくことができる。	・分度器で角度を測ったり、コンパスで長さを比べたりするなどの具体的な操作活動を通して、直角や180度を基準にして様々な大きさの角をイメージしたり、それぞれの図形の性質を理解したりできるようにする。 ・作図や計算で図形の角度を求める発展的な課題に取り組み、作図の方法や角度の求め方を友達同士で説明し合う活動の時間を設定し、自分の考えを深めることができるようにする。
C 変化と関係	○平均正答率は国を10.2ポイント、市を12.2ポイント上回っている。百分率で表された割合を分数で表したり、割合と基準量から比較量を計算したりすることができる。与えられた条件から割合や比較量を求めるための計算の技能が定着していると考えられる。 ●果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの果汁の割合について正しいものを選ぶ問題は平均正答率が28.2ポイントで、自校内の比較によると全問題の中で最も低かった。同一の容器内に入っている量を2分の1にしても割合は変わらないが、割合も2分の1になると誤答が多かった。	・誤答の原因の1つは、果汁が含まれている飲み物の量と果汁の割合の関係を比例として誤って捉えてしまったことが考えられる。割合に関する計算の技能と合わせてその意味についても日常生活の場面を取り上げて考え、理解を深めることができるようにする。 ・課題解決学習などで思考過程を説明する時間をとり、考えた結果を計算したり図表で表したりすることで検証する技能を高めていけるようにする。
D データの活用	○平均正答率は国を9.1ポイント、市を9.8ポイント上回っている。特に表中の空欄に当てはまる数を求める式と答を求める問題の平均正答率は92.3ポイントで、自校内の比較によると全問題の中で最も高かった。表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目し、ある項目に当たる数を計算で求めることができる。 ●表に分類整理されたデータを基に、目的に応じてその特徴を捉え考察する問題は、平均正答率が69.2ポイントで、領域D「データの活用」の中で最も低かった。	・算数で学んだデータを表にまとめることを学級活動や児童会活動など学校生活の中で生かしていく。さらにグループで話し合いながら特徴を考えたり、比較検討したりする機会を通して、データを表にまとめることのよさを実感できるようにし、データを活用する力や思考・判断力の向上を図っていく。

宇都宮市立中央小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	62.8	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	83.6	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	85.1	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	79.5	66.1	64.6
観点	知識・技能	76.5	65.9	62.5
	思考・判断・表現	79.0	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○平均正答率は、市や国の正答率を10ポイント以上上回っている。特に、『実験結果から問題解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ』問題では、89.7%で、全国を15ポイント近く上回った。 ●『光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ』問題では、全国より2ポイント低い25%の正答率であった。	・光の性質を調べる実験では、各個人で実際に取り組ませることができ一定の理解が見られた。しかし、問題の意図をよく理解せず軽率に扱い解答してしまった児童が多かったと思われる。問題を熟考し、解答する習慣を身に付けるとともに、結果から分かったこと等を自分の言葉で表現する力を伸ばしていきたい。
「粒子」を柱とする領域	○平均正答率は、市や国の正答率を20ポイント以上大きく上回った。特に、メスシリンダーという名称は100%の正答率で、その扱い方についても89.7%の正答率であった。	・水溶液の性質に関しては、器具の正しい扱い方を理解し、実験の予想と結果を基にまとめることができた。これからは、分かったことからさらに発展的な課題を見出すことができるようにしていきたい。
「生命」を柱とする領域	○平均正答率は、市の正答率を8.3ポイント、国の正答率を10.1ポイント上回った。特に、資料を基に育ち方と主な食べ物の特徴から、カブトムシと類似している昆虫を選ぶ問題は、97.4%の正答率であった。	・昆虫の体のつくりの問題が、わずかではあるが国の正答率より低かった。観察の視点をしっかりおさえ指導するとともに、身近な自然事象に対して普段から興味・関心をもてるように投げかけることで、知的好奇心や探究心を育てていきたい。
「地球」を柱とする領域	○平均正答率は、市の正答率を13.4ポイント、国の正答率を14.9ポイント上回った。特に、『冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ』問題では97.4%の正答率であった。	・どの問題も国を大きく上回っていて、知識が確実に身に付いているといえる。しかし、『結果から言えることは、提示された結果のどこを分析したものかを選ぶ』問題では、国同様に51.3%と低い正答率であった。今後は、観察などで得た結果から分かることの視点で分析、解釈し、自分の考えをしっかりとるようになっていきたい。

宇都宮市立中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日たべている」「毎日、同じ時刻に寝ている」の肯定的回答は97.4%、89.6%、89.7%と県・国の割合を上回っているが、「毎日決まった時刻に起きる」については0.7～2.1ポイント県や国を下回った。保健や家庭科で規則正しい生活リズムが健康によいことを学ぶが、定期的に声かけをしたり家庭とも連携を図ったりして基本的生活習慣を身につけさせたい。

○携帯電話やスマートフォンの使い方については、「家の人との約束を守っていない」と否定的回答をした児童が0%と素晴らしい結果であった。ただ、「使い方について約束はない」と回答した割合が2.6%あり、県や国よりも7～9ポイント低いのが注意点である。学年だよりや学級懇談などで家庭に呼びかけ、正しく安全な使い方を指導していきたい。

○1日当たりのテレビゲーム、SNS、動画視聴の時間については、1時間未満の割合が59.0%と県や国よりも20ポイント以上高く、時間を守ってやっていることがわかる。

○「将来の夢や目標を持っている」に肯定的回答をした割合は87.2%と県や国よりも7ポイント高い。「やると決めたことはやり遂げる」「難しいことでも失敗を恐れず挑戦する」との肯定的回答も89.7%、84.6%と県や国より高い割合を示し、将来の目標に向かって努力していることが伺える。今後も励まし応援していきたい。

○「いじめはどんな理由でもいけない」と回答した児童は100%であった。しかし、「困りごとや不安を先生や学校にいる大人にいつでも相談できるか」には12.8%の児童が「どちらといえば当てはまらない」と回答した。これは県より14.6ポイント、国より19ポイント低いが、今後悩みを話しやすい雰囲気づくりに学校全体で取り組んでいきたい。

○「学校が楽しい」と回答した割合は92.3%で、「自分と違う意見について考えるのが楽しい」87.2%、「友達と協力するのが楽しい」100%と県や国を5～10ポイント上回っていて、学校生活が充実していることがわかる。しかし、7.7%の児童が楽しさを感じていないと答えているので、今後さらに一人一人が居がいのある学級・学校経営に努めていきたい。

○「平日、学校以外に勉強している時間」については、87.1%の児童が1時間以上勉強し、県や国を20～30ポイント上回っている。土日も69.2%の児童が1時間以上勉強しており、自主学習が多くの児童に定着してきていると思われる。

○読書については、「読書が好きか」の肯定的回答が76.9%で4ポイント県や国を上回り、「1日どのくらいの時間、読書しているか」の質問に51.3%の児童が30分以上読書していて、県や国より15ポイント上回っているため、本校の児童はよく読書をしていることがわかる。

○タブレットに使用については、授業でよくタブレットを使い、調べたり発表したりして、勉強の役に立つと答えているが、「1日にどのくらい使っているか」の回答で3時間以上と答えた児童が7.7%と県や国を3.4～4.1ポイント上回っているため、スマートフォンと同様使い方について指導していく必要がある。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりできたか」について97.4%が肯定的回答で、県17.8ポイント、国を19.7ポイントも上回り、学習の中での話し合い活動が効果的に行われていることがわかる。

●「1日当たりのゲーム、SNS、動画視聴が4時間以上」と回答した割合が、ゲームで20.5%、SNSや動画で15.0%と県や国より5ポイント近く高いので、今後、家庭と協力して改善を図ってきたい。

●「家で自分で計画を立てて勉強している」に対して全くしていないと回答した割合が10.3%と県より5.3ポイント、国より2.9ポイント高かったため、今後計画を立てられない児童に寄り添い励まししながら自主学習の習慣をつけていきたい。

宇都宮市立中央小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める課題設定の工夫	児童が「知りたい」「解決したい」という探求的要求をもてるような「課題」の設定や提示の工夫をしている。	・「国語の勉強が好きか」という質問に肯定的回答をした児童が56.4%で、県や国の平均を下回っている。 ・「算数の勉強が好きか」という質問に肯定的回答をした児童が71.8%で、「理科の勉強が好きか」という質問に肯定的回答をした児童が87.1%で、どちらも県や国の平均を上回っている。 ・国語を中心に、引き続き課題設定の工夫に取り組んでいきたい。
考えを広げ深めるための学び合い活動の工夫	対話的な学び合いのための活動の設定を工夫して、友達との考えの交流から自分の考えを広げたり、深めたりできるような指導を目指している。 また、学びの深まりを自覚する振り返り活動の工夫をしている。	・「学級の友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」とについての肯定的回答の割合は、97.4%と市や県を10ポイント以上上回っていて、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「友達と協力するのは楽しい」の質問でも肯定的回答をした児童の割合も市や県の平均を大きく上回っている。 ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に肯定的回答をした児童も県や市の平均を上回っていて、振り返りを次時の学習に生かしている児童が多いことがわかる。
基礎的な学習内容の定着のための取組	少人数指導や全教員による朝の学習支援、定期的なステップアップテストの実施、AIDリルの活用などにより、学習内容の定着を図っている。	・算数の「知識・技能」の問題についての平均正答率は、75.8%で県や国の平均を上回っている。 ・国語の「知識・技能」の問題についての平均正答率は、78.6%で県や国の平均を10ポイント近く上回った。
家庭学習の充実と習慣化のための指導の工夫	全学年「家庭学習マイプラン」による家庭学習の記録を行い、家庭での学習意欲を高めたり、自主的に学習に取り組む習慣をつけられるように指導している。 また、「家読」を行い、家庭での読書習慣の定着を目指している。	・「家で自分で計画を立てて勉強している」という質問の肯定的回答をした児童は82.0%と県・全国の平均を上回った。 ・「1日あたりどれくらいの時間勉強しているか」という問いに対して、1時間以上と回答した児童が87.1%で国や県の平均を10%以上上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題では、国や県の平均を下回っている。 ・算数や理科の調査からも、自分の考えをもち、話し合いから考えを深めていく必要があると考えられる。	言語活動充実	・全ての児童が自分の考えをもち、友達と学び合いながら、学習のねらいに沿って自分の力を高めていけるようにする。 ・教師が児童の学びをコーディネートしていく。 ・自分の考えがうまく伝わるよう、ICT機器を効果的に活用していく。